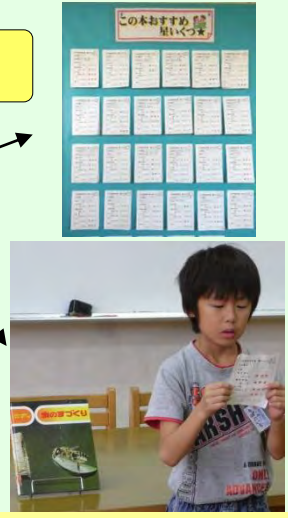
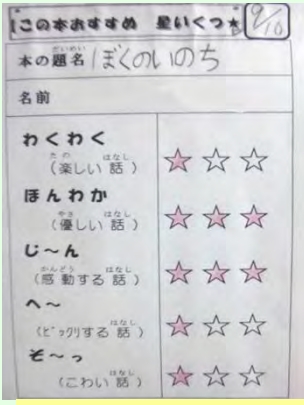


学習環境部



並行読書のすすめ

①読書活動の充実



☆で本の内容を紹介→全クラス統一で廊下に掲示
また、クラスでその本の紹介



担任・図書支援員による取組



個人の読書量が一目でわかる掲示の工夫



読んだ本のおすすめがわかる掲示の工夫

②ことばの時間の工夫

週1回、業前15分間の取組(年間で書く・話す・聞くに内容を分けて取り組ませる)

1学期「書く」



1年 ひらがな視写

取り組みたい内容	書く	話す	聞く
1年	ひらがな練習 ひこま書写文	ひこま書写文 ひこま書写文	マロリンゲーム マロリンゲーム
2年	漢字・カタカナ・読書 読書の楽しさを伝える書写文	理由を入れたスピーチ 理由を入れたスピーチ	マロリンゲーム マロリンゲーム
3,4年	漢字 漢字	理由を入れたスピーチ 理由を入れたスピーチ	マロリンゲーム マロリンゲーム
5,6年	漢字 漢字	理由を入れたスピーチ 理由を入れたスピーチ	マロリンゲーム マロリンゲーム

2学期「話す」



2年 理由を入れたスピーチ



6年 視写



3年 調べたことのグループ発表



5年 グループ討論



4年 テーマスピーチ

3学期は「聞く」を中心に取組む予定

留意点
○学期ごとに身につかせたい力を重点的に指導するが、それ以外の領域も実態に合わせ柔軟に指導する
○点数やタイムなど児童の伸びが目に見えて実感できるような活動にも意図的に取り組む
(漢字の点数、視写の文字数、タイムなど書く活動を中心に)
○学力状況調査の過去等を参考に子ども達が苦手そうで普段の授業では取り組まないような内容も適切に導入する

③国語掲示の充実



情景描写の読み取り



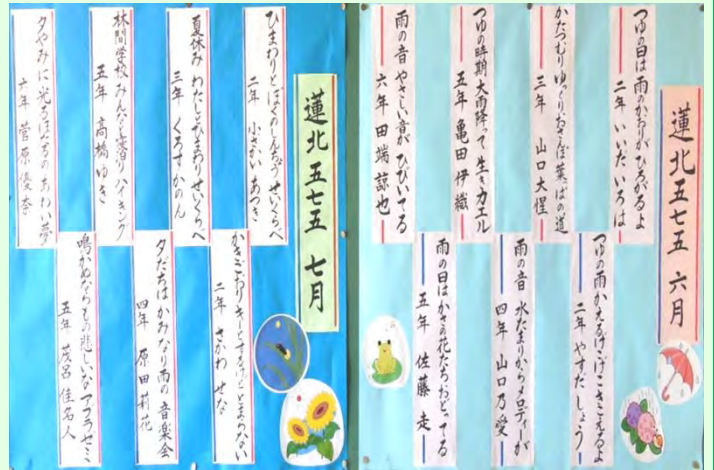
学習計画表・授業の振り返り など



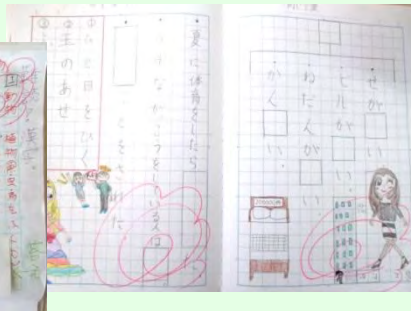
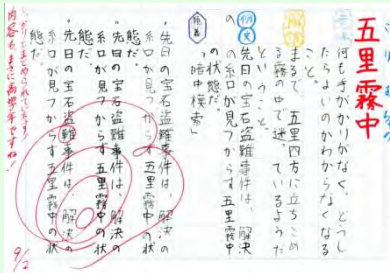
④蓮北五七五



職員室前・階段の学年掲示



⑤家庭学習（自主学習）の取組



<成果>

- 様々な取組で児童の読書量も増え、読書活動全体にも広がりがみられた。
- 一人で読む読書から友だちのお勧めの本を知ったり親子で読んだりして読書の幅が広がった。さらに教材の並行読書をすすめたことで普段あまり読まない分野の本にも興味をもたせることができた。
- ことばの時間を計画的に実施したことで、指導のポイントが明確になり、どのクラスでも言語活動に必要な力をつけることができた。

<課題>

- 児童の読書量は増えたが個人差が大きく、今後の継続という点は課題である。今後も教師側の継続的な声かけや場面設定などの働きかけで、意欲を継続させる必要がある。
- 学年ごとの到達度や系統性を研究することで、さらに言語活動の充実を図り、学力向上にもつなげていく。

